

令和4年度
五島高校：図書委員
6月20日作成
6月27日発行

6月 Libraries are Fun

図書委員制作担当

3-1 3-2
3-1 3-2

ほたるが舞う、思い出づくりの夏がはじまる 「ほたる」の季節です

優しい光をまといながら飛ぶその姿は、なんとも言えない美しさがありますよね。華々しい姿で飛んでいられるのはほんの一瞬。

その光は恋愛のシグナルであるせいか、平安の昔から歌や物語の恋愛の場に堂々として登場します。はまってしまふ「ほたるの本」を紹介します。

思い出の場所「ほたる神社」

『虹色ほたる』 川口雅幸 アルファポリス



父親の交通事故死を乗り越えようとする小学校6年生の男の子ユウタの奇想天外な夏休みでのサエコとの出逢い、少年ユウタ・少女サエコの不思議な運命の交錯、そして悲しすぎる別れ、最後に起きる奇跡と感動のシーンに、何度も涙します。

映画化され、原作とは真逆の内容もありますが、それがまた新しい感動と発見があります。どちらもお勧めです。

「ほたる館」孫娘の成長

『ほたる館物語1~3』 あさのあつこ ぴょん文庫

温泉町にある老舗旅館「ほたる館」の孫娘・一子。純粋で多感な少女の成長を描く著者デビュー作シリーズです。

旅館のお手伝いの中で、家族や友達を思いやり、時には反発しながらも、真っすぐに向き合っていく物語です。



彼の名前は「螢」

『波打ち際の螢』 島本理生 角川書店

DVで心の傷を負い、カウンセリングに通っていた麻由は、螢に逢い心惹かれていく。彼を想う気持ちと不安。相反する気持ちを抱えながら、麻由は痛みを越えて足を踏み出す。切実な祈りと光に満ちた恋愛小説です。



～五高としょかんは楽しい！～

こんにちは！図書委員です。
高総体の興奮が冷めやまない今日。
6月11日梅雨入りしました。

島のシンボル「鬼岳」は霧ですっぽり隠れんぼ!!
梅雨の中休みには爽やかな新緑のホマーテを眺めてみて下さい。
梅雨のうっとうしい日は、としょかんでリフレッシュ!

全国書店員が選んだ いちばん！売りたい本 2022年 本屋大賞

大賞

2位



赤と青とエスキース
青山美智子：著
PHP研究所

表紙にあるきれいな水彩画は『春1番』という題名水彩画です。心がじん、と温まるような物語です。

3位



スモールワールドズ
一穂ミチ：著
講談社

後悔の数が多ければ、愛おしい人生なのではないか？
今を生きていく上でとても参考になる名言があります。



同志少女よ、敵を撃て
逢坂冬馬：著
早川書房

戦争を通じて私達はどうなるのか。この後どうするのが正しいのか。とても切実な物語です。

4位 「正欲」…朝井リョウ

5位 「六人の嘘つきな大学生」

…浅倉秋成

6位 「夜が明ける」…西加奈子

7位 「残月記」…小田雅久仁

8位 「硝子の塔の殺人」…知念実希人

9位 「黒牢城」…米澤穂信

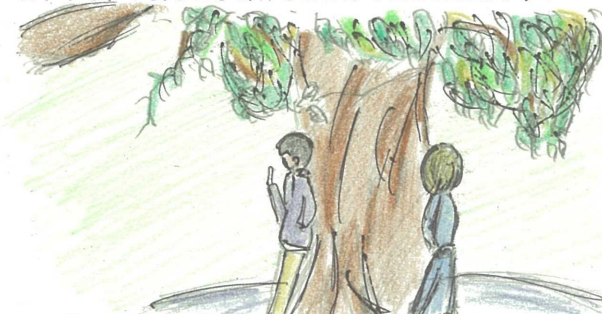
10位 「星を掬う」…町田そのこ

3年生図書委員のオススメ 青春して！感動しよっ!!

『青くて痛くて脆い』 住野よる KADOKAWA

映画化したこの作品は、タイトル通りに、主人公の拙さ、痛さ、脆さを丁寧に書き出している印象を受けた青春をテーマにしつつも、焦点を当てるのが恋愛でも学業でもなく、青春に残る青臭さだということは、新鮮味があり、最後まで一気に読めた。

住野よるさんが好きな人、青春の青臭さを感じてみたい人、映画化された作品に触れてみたい人はぜひ、この本を手にとって、小説という媒体で目にしたい作品です!



『西の魔女が死んだ』 梨木香歩 新潮社

この本は、不登校になった中学生の少女「まい」が西の魔女こと、おばあちゃんのもとで生活する様子を描いた物語です。

まいは「魔女＝自分の意思で自分のことを決めてやり遂げる力を持つ人」になるために修行をします。おばあちゃんの温かさや優しさの中で修行をし、多くの体験を通し、まいが成長していきます。

読むと、つい自分と重ねてしまって考えたり、おばあちゃんに愛にふれて心があたたまるといった感動物語です。ぜひ読んでみてください。

